

### 第3問

次の文章は『源氏物語』(夕霧の巻)の一節である。三条殿(通称「雲居雁」)の夫である大将殿(通称「夕霧」)は、妻子を愛する実直な人物で知られていたが、別の女性(通称「落葉宮」)に心奪われ、その女性の意に反して、深い仲となつてしまった。以下は、これまでにない夫の振る舞いに衝撃を受けた三条殿が、子どもたちのうち、姫君たちと幼い弟妹たちを連れて、実家へ帰る場面から始まる。これを読んで、後の問い(問1～6)に答えよ。(配点 50)

三条殿、「限り a、なめり」と、「さしもやは」とこそ、かつは頼みつれ、『まめ人の心変はるは名残なくなむ』と聞きしは、まことなりけり」と、世を試みつる心地して、「いかにさまにしてこのなめげさを見し」と思しければ、大殿へ「方違へむ」とて渡り給ひにけるを、女御の里におはするほどなどに対面し給うて、少しもの思ひ晴るけどころに思されて、例のやうにも急ぎ渡り給はず。

大将殿も聞き給ひて、「さればよ、いと急にものし給ふ本性なり。このおとども、はた、おとなおとなしうのどめたるところさすがになく、いとひききりに、はなやい給へる人々にて、『めざまし、見じ、聞かじ』など、ひがひがしきことどもし出で給うつべき」と、驚かれ給うて、三条殿に渡り給へれば、君たちも片へはとまり給へれば、姫君たち、さてはいと幼きとをぞ率ておはしにける、見つけて喜び睦れ、あるは上を恋ひ奉りて愁へ泣き給ふを、X「心苦し」と思す。

消息たびたび聞こえて、迎へに奉れ給へど、御返りだになし。「かくかたくなしう軽々しの世や」と、ものしうおぼえ給へど、おとどの見聞き給はむところもあれば、暮らしてみづから参り給へり。「寝殿になむおはする」とて、例の渡り給ふ方は、御達のみさぶらふ。若君たちぞ乳母に添ひておはしける。

A 「今さらに若々しの御まじらひや。かかる人を、ここかしこに落とし置き給ひて、など寝殿の御まじらひは。ふさはしからぬ御心の筋とは年ごろ見知りたれど、さるべきにや、昔より心に離れがたう思ひ聞こえて、今はかくくたくだしき人の数々あはれなるを、『かたみに見棄つべきにやは』と頼み聞こえける。はかなき一ふしに、かうはもてなし給ふべくや」と、いみじうあはめ恨み申し給へば、

B 「何ごとも、『今は』と見飽き給ひにける身なれば、今、はた、直るべきにもあらぬを、『何かは』とて。あやしき人々は、思し棄てずは嬉しうこそはあらめ」  
と聞こえ給へり。

C 「なだらかの御答へや。言ひもていけば、誰が名か惜しき」  
とて、強ひて「渡り給へ」ともなくて、その夜は独り臥し給へり。

「あやしう中空なるころかなと思ひつつ、君たちを前に臥せ給ひて、かしこに、また、いかに思し乱らんさま思ひやり聞こえ、やすからぬ心づくしなれば、「いかなる人、かうやうなること、をかしうおぼゆらん」など、<sup>Y</sup>もの懲りしぬべうおぼえ給ふ。」

明けぬれば、「人の見聞かむも若々しきを、『限り』とのたまひは、<sup>c</sup>てば、さて試みむ。<sup>(注13)</sup>かしこなる人々も、<sup>(イ)</sup>らうたげに恋ひ聞こゆめりしを、選り残し給へる、『様あらむ』とは見ながら、思ひ棄てがたきを、ともかくももてなし侍りなむ」と、威し聞こえ給へば、「すがすがしき御心にて、この君たちをさへや、知らぬ所に率て渡し給はん」と、あやふし。

姫君を、「<sup>(ウ)</sup>いぎ、給へかし。見奉りにかく参り来ることもはしたなければ、常にも参り来じ。かしこにも人々のらうたきを、同じ所にてだに見奉らん」と聞こえ給ふ。まだいとはいはけなくをかしげにておはす、「いとあはれ」と見奉り給ひて、「母君の御教へにな叶ひ給うそ。いと心憂く、思ひとる方なき心あるは、いと悪しきわざなり」と、言ひ知ら<sup>d</sup>せ奉り給ふ。

(注) 1 大殿——三条殿の父(本文では「おとど」の邸宅)。

2 女御——三条殿の姉妹。入内して宮中に住むが、このとき、里下がりして実家(大殿)にいた。

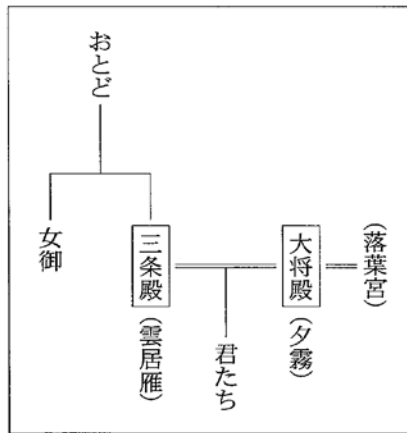
3 おとど——三条殿の父。

4 いとひききりに——ひどくせつかちで。

5 はなやい給へる人々——派手にふるまうて事を荒立てなさる人々。「はなやい」は「はなやぎ」のイ音便。

- 6 三条殿——ここでは大将殿夫妻の邸宅を指す。
- 7 君たち——大将殿と三条殿の子どもたち。
- 8 上——三条殿。
- 9 寝殿——寝殿造りの中央の建物。女御の部屋がある。
- 10 例の渡り給ふ方——三条殿が実家でいつも使っている部屋。
- 11 御達——女房たち。
- 12 中空なる——落葉宮には疎まれ、妻には家出されるという、身の置き所のない様。
- 13 かしこなる人々——大将殿夫妻の邸宅(三条殿)に残された年長の息子たち。

人物関係図 主要登場人物は□で囲んだ。( )内は通称。



問2 波線部 a ～ d の文法的説明の組合せとして正しいものを、次の ① ～ ⑤ のうちから一つ選べ。解答番号は

24。

- |   |   |           |   |        |   |         |   |        |
|---|---|-----------|---|--------|---|---------|---|--------|
| ① | a | 断定の助動詞    | b | 受身の助動詞 | c | 完了の助動詞  | d | 使役の助動詞 |
| ② | a | 形容動詞の活用語尾 | b | 受身の助動詞 | c | 完了の助動詞  | d | 尊敬の助動詞 |
| ③ | a | 断定の助動詞    | b | 自発の助動詞 | c | 完了の助動詞  | d | 使役の助動詞 |
| ④ | a | 形容動詞の活用語尾 | b | 自発の助動詞 | c | 動詞の活用語尾 | d | 尊敬の助動詞 |
| ⑤ | a | 断定の助動詞    | b | 自発の助動詞 | c | 動詞の活用語尾 | d | 使役の助動詞 |

「な(る)めり」に

はラ変型に接続形態

	なれ	なれ	な(る)	なり	なり	なら
	命令	已然	連体	終止	連用	未然
○	めれ	める	めり	めり	○	
	命令	已然	終止	連用	未然	

限り 体名詞

**a**

断定

体言に接続しているので、

驚け	驚け	驚く	驚く	驚き	驚か	
命令	已然	連体	終止	連用	未然	
	れよ	るれ	るる	る	榎	
	命令	已然	連体	終止	連用	未然
給へ	給へ	給ふ	給ふ	給ひ	給は	
命令	已然	連体	終止	連用	未然	

心情を示す言葉

自発

**b**

て、

心情を示す言葉に接続する「る」は自発。

	まのへた	まのへた	まのふた	まのふた	まのひた	まのはた
	命令	已然	連体	終止	連用	未然
果は	果つれ	果つる	果つ	果て	はて	
命令	已然	連体	終止	連用	未然	
		なむ	ばや	で	ば、	

動詞の活用語尾

c

完了の助動詞ならば、「て」は、連用形に接続する。「は」は連用形ではない。

知れ	知れ	知る	知る	知り	知ら		
命令	已然	連体	終止	連用	未然		
	せよ	すれ	する	す	せ		
	命令	已然	連体	終止	連用	未然	
	奉れ	奉れ	奉る	奉る	奉り	奉ら	
	命令	已然	連体	終止	連用	未然	
		給へ	給へ	給ふ	給ひ	給は	
		命令	已然	連体	終止	連用	未然

d

使役

尊敬の意味の「せ」は、上下に尊敬語を伴う、「奉る」は謙讓語。「くせ給ふ」の場合は尊敬。